

令和 6 年度みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 結果概要

○日 時 令和 6 年 11 月 15 日(金) 14:10 (委嘱状交付式終了後) ~16:30

○会議方法 みどり市役所大間々庁舎 大会議室

○出席者 みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員 8 名

○議題内容

(1) みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について【資料 1】

【委員意見】

なし

(2) 令和 5 年度総合戦略検証委員会の意見について【資料 2】

令和 4 年度の実績について、前年度の検証委員会で出た意見に対する取組状況の説明を事務局より行った。

【委員意見】

○民間協働のところの取り組み状況と今後の展望が、抽象的で少しわかりづらいが、取り組みや展開で具体的に考えていることはあるか

⇒民間の資金やノウハウを活用しながら取組んでいる。今後も様々な方法を検討する。

(3) みどり市まち・ひと・しごと総合戦略(中期)の進捗状況および

今後の方針について【説明用資料および資料 3、4】

現時点の戦略の目標に対する進捗状況の報告および今後の改訂のポイントについて事務局より説明

【委員意見】

○みどり市は大間々・東は高齢化、笠懸は若年層転入増など、地域ごとに人口特性がある。医療、福祉、子育て、介護、交通など、バランスの取れた整備・発展をしていただきたい。また、職と住が近いことは重要だと思うので、働く場の整備の推進を期待したい。

⇒子育てや教育が前面に出がちだが、住みやすい町というところでは、今ご意見いただいたように、医療、福祉、介護、交通も充実させる必要があると思っている。

また、近隣市への転出超過には働く場という点が影響していることもあるかと思うので、働く場について意識した取り組みにも力入れていきたい。

○若い人が住もうとする理由になるような、飲食店や商業施設が近隣市に多くあり、全国的にも人口減少が進む中で、みどり市が人口減少の対策としてどこまでの施策に取り組んでいくのか、具体的な方向性はあるのか。

⇒子育て施策については競艇からの「こども未来基金」の 20 億を使い、具体的などころを検討中であり、また渡良瀬幹線道路の整備と併せ、産業団地の整備を実施中であり、子育てと雇用両面で検討している。

○東・大間々・笠懸という 3 つの地域別にどう考えていくかが大切かと思う。笠懸はど

んどん発展しているが、東や大間々の方は厳しい状況がある。観光で交流人口を増やすだけでなく、定住施策が重要だと考える。年間を通じて、人が集まるような状況を作るような計画をお願いしたい。

⇒岩宿周辺の整備が始まる一方、大間々の町中では、リノベーションまちづくりを手がけている他、ながめ周辺も今後整備を検討中。また東ではサンレイク草木のリニューアルといった大きなものもあり、草木湖を使った取り組みも考えている。各3町の特色を考えながら、バランスよく進めていきたいと考えている。

○出生率の上昇には、子どもを望むのかどうかということや、2人以上産もうと思うかどうか、まずは生の声を聞き取り、現状の施策とのギャップを分析することが必要なのではないか。また、テレワークや柔軟な働き方も含めて考えるとよいのでは。

⇒2人以上産むには経済的な負担が大きいというような原因の把握や、子育ての環境整備に必要なことについて具体的な聞き取りをしている状況がある。これら子育てや教育環境の充実に反映できるよう進めていきたいというふうに考えている。

経済的な負担以外にも、晩婚化や社会的な構造的な部分といったものがある中において、何が足枷になっているのかを把握して事業を進めていきたいと考えている。

○民間との協働ということで、子育てや出産のしやすさに産院や小児科の数ということも関わってくるかと思う。行政として病院などに関わりを持ったり、増やすなど、市としてそのあたりの視点はあるのか。また、みどり市独自の奨学金制度を設けたりする予定はあるのか。

⇒医療機関について、行政で直接的に何しているところはない。直接、民間の病院に働きかけることは難しいが、今後の取り組みに生かしていきたい。

奨学金については、来年度の事業検討中であり、示せるタイミングが来たらお伝えしたい。

○各自治体で子育て支援は盛んに行っているが、「少子化対策」をしているところは少ない。少子化の要因としては経済的負担や晩婚化などがあり、奨学金対策など、若者が将来に希望を持ち、結婚してもらうという視点での取り組みも必要ではないか。また、合計特殊出生率の計算方法では、子どもを産んでいない女性を分母から除けばおのずと出生率は上がるという仕組みであり、この合計特殊出生率をKPIとして市の政策を考えていくことについて疑問を感じている。

⇒課題を細分化すると真の原因が見え、それが取り組みに繋がると思うので、今のご意見を参考にし、奨学金の制度も検討していきたいと思う。

KPIについてはおっしゃる通り、数値の達成が単純に事業やったことを示すだけで、それをやった結果どうなったのかが見えないと駄目だと思うので、本当の指標をしっかりと考えていきたい。

合計特殊出生率は、先ほどのからくりみたいな部分もあるものの、子どもを産みやすい状況を示す1つの数値と考えている。出生数などいくつかの指標を複合的に見

ながら、考えていく必要があると考える。

○今回の戦略の5番目の「地域特性に応じた魅力発信と定住促進」の基本目標を読むと、観光ではなく移住定住促進の内容だが、基本施策や成果指標は観光になっている、観光と定住がごちゃまぜになっており、ぶれてしまっているように感じる。

⇒観光で交流人口を増加させ、それを定住に結びつけるという考え方であったかもしれないが、定住というところを見ると違った視点での指標が必要かと思うので、各課と見直しをしていきたい。

(4) 地方創生関連交付金(地方創生推進交付金)事業の実績について

各担当課より令和5年度の事業実績(4事業)について説明

《みどり市元気プロジェクト》【資料5】

【委員意見】

○参加者数の伸び悩みや、年代の偏りという課題があるが、1度参加すると継続して取り組んでくれたり、満足度が高い事業だと感じる。4、50代の方の参加が弱いようだが、その要因の分析をしているのかという点と、取り組んだ人の満足度が高いという効果面についての情報発信についてどんな取り組みをしているのか。

⇒事業の参加に当たり、初回説明会への参加が必須で、それには仕事を休む必要があることが大きなハードルとなっているほか、活動量計を身につけるのが面倒だとか、ポイントを貯めるためにデータの送信が必要で、活動量計を測定できる場所に行かなければならない煩わしさがある、といったご意見をいただいている。

また、参加費千円が必要で、その参加費用を払うということにも参加のしづらさがあり、これらが参加者数伸び悩みの課題と考えている。

9割の方が継続参加をしている点について、事業を案内する際にPRとして、多くの方に参加していただけるような情報発信や案内は行っている。

○まちを歩きたいというふうに思ってもらえるように、単なる健康づくりの面だけでなく、まちづくりという観点で、市全体で歩きやすい、歩きたくなるまちづくりに取り組んでみたらどうかと思う。

【委員評価結果】

取り組み内容は評価できる。

参加者の増加に向けてPRや周知の仕方を工夫しながら事業を継続してもらいたい。

《赤城山広域連携サイクルツーリズム》【資料6】

【委員意見】

○KPI の一番上の観光有効客数について、サイクルツーリズムでの入込数のカウントなのか、それとも観光客全体なのか教えていただきたい。

⇒全体ではなく、小平の里、まちなか交流館を利用した人の合計である。

○車ででの来場者も含まれているので、サイクルツーリズムの効果を図る数値として適正なのか疑問に感じる。現総合戦略でも、観光の広域連携の指標で、「市内全域の年間増加乗降客数」を KPI にしているが、おそらく通勤通学の乗降客も入っていると思われる。効果を図る指標として適切なものの設定をしていただきたいと思う。

委員評価結果

令和 5 年度で終了したが、再び実施するかどうかは関係自治体と検討協議をしていくこと。なお再び実施する場合には新たに計画策定と認定が必要となる。

《産業ニューノーマル創出事業》【資料 7】

【委員意見】

○SDGs に関する企業の意識が相当変化してきているけれども、具体的な成果はこれからだという全体的な評価という認識でよいのか。

⇒このプログラムが SDGs の宣言までの導入部分なので、SDGs 宣言をした企業と連携をとり、成果についてはこれからだと考えている。

委員評価結果

取り組み内容は評価できる。

なお、本事業は令和 5 年度で終了している。

《地域経営・エリアマネジメントにより稼ぎ・発展する地域づくり事業》【資料 8】

【委員意見】

○多くの人が歩き出すと、お店の存在が必要とされてくる。そこからスタートだと思う。先に店があっても、経営が難しい。歩く人の増加による回遊ルートがあることによって路地や裏通りなどに店舗展開されていくので、今後よろしくお願いします。

○こういう事業がみどり市ブランドと繋がったりするという認識でよろしいのか。

⇒令和 4 年度から今年度、令和 6 年度まで 3 年間の事業だが、こういった特産品創出事業で生まれた商品が、現在募集している、新しいみどり市ブランドの商品に応募されてくると考えている。

○2 つ目の KPI「魅力的な特産品が増えたと感じる市民の割合」の目標値の 15%は、7 人に 6 人の人は、魅力的な特産品が増えたと感じてないということになる。そのように低い目標値でよいのかということは感じる。

この件以外にも全体的に低い KPI がいくつかあり、そのような数値だと、何か突発的なことで目標は達成されるが、根本的な改善がされないということも起こりうるのではと思う。

⇒設定する前にどのぐらいの数字が出るかっていうところがわからず設定した経過もあり、低い数字になのかと思う。市民アンケートの中で実績を取っているが、もう少し高い目標でもよかったかなと思う。

○この事業はまだ道半ばなんじゃないかと思うが、この後何かリノベーションについてこういう方向で進んでいくというような方向性があれば教えてほしい。

⇒本事業については、令和 5 年度にまちおこしを行う民間団体を創出し、令和 6 年度には、リノベーションスクールという形で受講生を集めて利活用を行ってきており、金融機関等とも連携し、融資を含め取り組んできた経過がある。

この事業については長期で計画して現在も進めている。

委員評価結果

取り組み内容は評価できる。

本事業については令和 6 年度で終了だが、単独事業として実施していくにあたって、意見を踏まえながら継続していただきたい。

(5) みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

戦略と人口ビジョンの改訂イメージについて事務局より説明

【委員意見】

○直接関係がないかもしれないが、高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が相当増えてきている。一人暮らしで、病気や認知、急に亡くなったりすることで空き家や草の除草問題や、また防犯、防火など非常に多くの問題が出てくることが考えらえる。

総合戦略に盛り込む内容ではないかもしれないが、市としてそういう視点での検討もお願いしたい。

⇒みどり市においても、高齢化がかなり進んで急速に進んでおり、そういった対策も喫緊の課題というふうに考えている。子どもへの取組だけでなく、高齢者へも併せて力入れているということを見せられるようにしていかなければいけないと考えている。

○未来へ明るい希望の持てる計画や戦略を立てることも重要なことと思うが、やはり人口が減ったときに、どのような自治体にしていくかという計画を事前に作っていかないといけないと感じる。この先人口が減っていくというのがわかっている社会を見据えて、町、自治体をどういうふうにしていくか、そういう視点での計画が必要なのではと考える。